

これまでに読んで印象に残った本の紹介

3S 音田恭宏

「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか？ 咬みません。躰のできたよい子です」「——あらやだ。けっこういい男。」と、帰宅途中に道端に落ちていた彼（“イツキ”）を拾って帰った“さやか”。このラピュタのような展開で始まる有川浩さんの『植物図鑑』はほんまに素敵なお話で、続きが気になってノンストップで読めました。有川さんの作品のなかで一番お気に入りの一冊です！この物語は基本、イツキとさやかの山菜・野草摘み、観察のお散歩で話が進んでいき、甘ったるかったです。登場してき

た植物の特徴や調理方法が載っていて、カラー写真で山菜さんたちが紹介されているのでどんなものなのかイメージしやすかったですし、豆知識にもなりました。道に生えている草花を見ると名前がわかり、道草狩りは楽しいですよ。番外編としての「ゴゴサンジ」もおもしろい。『植物図鑑』読みたくなったでしょう？ 図書館にありますので、よかったら読んでみてください。それに、『図書館戦争』シリーズや『阪急電車』もおすすめです！ 有川さんの小説は期待を裏切りません。

3I 中島賢二

今回僕が紹介したい本は有川浩さんのアクションラブコメディ作品『図書館戦争』シリーズです。何故この本かという、早い話がライトノベル以外で特に印象に残った作品というのがこのシリーズくらいのもので、なおかつこの作品をもっとたくさんの人に読んでもらいたいと考えたからです。全4巻、外伝2巻、派生作品も1作あります。

物語の舞台は現代より少し未来の日本。公序良俗を乱し人権を侵害する表現を取り締まる法律「メディア良化法」により、図書への検閲が法的に行われる時代。国家権力である「良化隊」の検閲行為に唯一対抗することができる組織である図書館は「図書隊」を設立し、全ての図書と表現の自由を護るため戦うのだった。本編では図書隊員であ

る本作の主人公・笠原郁を中心に図書隊の奮闘と郁の恋の行方を描きます。「法律」「人権」などと聞くとお堅い小説のように感じるかもしれませんが、実際はそうでもありません。各所に笑いを誘う描写が挟まれていたり、主人公の恋愛に大きくスポットが当てられていたりで政治や法律の話に関心がない方でも割と抵抗なく読めると思います。特に後者はベタ甘な恋愛描写に思わずニヤニヤしてしまうこともあるほど。もっとも、これについては有川さんのほとんどの作品に共通する特徴なのですが。

兎にも角にも『図書館戦争』シリーズはオススメできる作品ですので、これを読んでもし興味がわいたなら一度読んでみてください。

5S 山崎翔太

有川浩さんの本『キケン』は、フィクションと現実がうまい具合に組み合わさって面白い本です。舞台は成南工科大学という大学の「機械制御研究部」（通称「キケン」）というものづくりのサークルで、主人公を含む部員たちが爆弾魔(笑)の大野先輩と武闘派の大神先輩に振り回されつつワイワイガガヤヤやっているという話です。特に印象に残っている話は「3倍にしろ」と「勝たんまでも負けん」と「落ち着け、俺たちは今…」の3つです。

「3倍にしろ」は、主人公を含む部員たちが大野先輩の絶対の命令のもと、文化祭でラーメン売って売り上げを3倍にしてやろうという話です。この話は、実はお店の子である主人公が唯一輝いていた話という印象があります。

「勝たんまでも負けん」は、ソフト分野のスペシャリス

トとハード分野のスペシャリストが手を組み、あるロボット大会で優勝しようという話です。この話では最終的に作ったロボットがすごいことになってしまうのですが、「本当にこんなことができたなら楽しいだろうなあ」と、フィクションだとわかっていても憧れてしまいます。

「落ち着け、俺たちは今…」は、主人公がボールペンを改造して作ったおもちゃの銃が発端となり、性能向上をしていく過程で超えてはいけない一線にまで来てしまうという話です。この話では、優れた技術も一歩誤れば危険につながるということが改めてわかりました。

これらの他にも面白い話がたくさんあるのでぜひ読んでみてください！

第36回読書感想文コンクールのご案内

次の要領で今年も読書感想文を募集します。

長い夏休み、余暇を十分に活用して力作を寄せてくださることを期待します。

- 対象図書 感想文用参考図書（図書館にコーナーを設置）その他興味を持った図書
- 字数 所定の原稿用紙2枚（1,560字）以内
- 提出日 9月1日（木）
- 提出先 1・2年生はクラスで集めて国語科教員へ提出
3年生以上は国語科教員または図書館へ提出
- 表彰 優秀者10名くらいを表彰の予定です。他に副賞として図書カードを贈ります。
また、「図書館だより」にも掲載しますのでご協力ください。